

【写】

3 1 台 監 第 6 0 号
令 和 2 年 3 月 3 0 日

殿

台東区監査委員

元 田 秀 治
大 場 賢 一
中 澤 史 夫

令和元年度 定期監査（事業所その二、学校等）の結果について（報告）

地方自治法第199条第1項及び第4項の規定に基づき標記監査を実施しましたので、
この結果を同法第199条第9項の規定により、別紙のとおり報告いたします。

(別紙)

1 監査期間

(1) 事業所

令和元年9月2日(月)～令和2年3月27日(金)

(2) 小学校、中学校、幼稚園、こども園

令和元年11月28日(木)～令和2年3月27日(金)

2 監査対象

(1) 事業所

南部区民事務所、台東地区センター、東上野地区センター、上野地区センター、浅草橋地区センター、台東区民会館、台東子ども家庭支援センター、松が谷福祉会館、浅草保健相談センター、玉姫保育園、谷中保育園、千束保育園、待乳保育園、根岸図書館、石浜図書館

(2) 小学校、中学校、幼稚園、こども園

上野小学校、根岸小学校、忍岡小学校、金曾木小学校、大正小学校、台東育英小学校、富士小学校、千束小学校、金竜小学校、柏葉中学校、上野中学校、浅草中学校、根岸幼稚園、清島幼稚園、大正幼稚園、育英幼稚園、千束幼稚園、金竜幼稚園、富士幼稚園、石浜橋場こども園

3 監査の範囲

主として令和元年度にかかる財務における事務の執行状況及び施設の管理運営が、法令等に基づいて適正かつ効率的に行われているかどうかを主眼として実施した。

4 監査の方法

監査委員は、関係部課長、事業所長、学校長、園長から、事務事業の運営状況及び予算の執行状況等の説明を聴取し質疑応答を行い、監査を実施した。

また、事務局職員は監査委員の命を受け、監査対象事業所・学校等から関係書類及び帳簿等の提出を求め、調査及び事情聴取等の予備監査を行い、その結果を監査委員に報告した。

予備監査における主な確認書類

- (1) 職員服務関係書類(出勤簿、休暇簿、超過勤務等命令簿、給与簿、各種届出書等)
- (2) 旅費執行関係書類(旅行命令簿兼旅費請求内訳書、出張復命書等)
- (3) 経理関係書類(契約締結請求書、請書、各種整理簿、金券受払簿等)

- (4) 収入関係書類（施設使用許可・使用料減額免除申請書、収納金関係書類等）
- (5) 施設・備品管理関係書類（施設保守点検報告書、供用備品現在高一覧表等）
- (6) 給食関係書類〔保育園・認定こども園のみ〕（賄材料納品書、仕入帳等）

5 監査の結果

提出された関係書類等を基に、事務事業の執行状況や施設の管理運営等について監査したところ、おおむね良好に行われており、特に、指摘・指示を要する事項はない。ただし、軽微ではあるが次のような口頭注意事項があったため、今後の適正な事務処理等に留意されたい。

<事業所>

(1) 口頭にて注意した事項

①出勤簿の整理について

出勤簿の整理は、東京都台東区職員出勤記録及び出勤簿整理規程第8条第1項に基づき、管理者から出勤簿整理保管者への報告により別表に定める区分に従い表示しなければならないとされている。

しかしながら、出勤簿に表示すべき年次有給休暇、週休日の振替や夏休等の表示がない事例や表示があっても届け出の見当たらないもの、逆に届け出があっても出勤簿に表示のないものが見受けられた。

出勤簿の整理については、規程に則り適正な事務処理に留意されたい。

②施設の維持管理について

消防設備点検記録や建築物定期点検(法定点検)記録の確認において、一部の施設において、非常照明や誘導灯がバッテリー不良により点灯せず緊急時の避難に支障が生じると思われる事例が見受けられた。また、エアコンの不具合が出ている施設もみられた。所管に確認したところ、不具合箇所については、その都度対応しているとの回答を得た。

しかしながら、今後は全ての設備が劣化していくので、各所不具合箇所の発見に努め、速やかに不具合部分を改善し、施設の安全確保を図り、適切な施設の維持管理をされたい。

③その他、口頭にて注意した主なもの

- ・旅行命令簿兼旅費請求内訳書の記入誤り、記入漏れ
- ・サービス関係書類の記入誤り、記入漏れ、押印漏れ
- ・見積書の日付漏れ
- ・決裁日、保存年限、公開の可否の記入漏れ

<学校等>

(1) 口頭にて注意した事項

① 服務関係書類の処理について

休暇・職免等処理簿において休暇申請しているが、出勤簿では未処理の事例や出勤簿上休暇の処理がされているが、休暇申請が漏れている事例、年次有給休暇繰越しに当たっての勤務実績欄の未記入の事例、子どもの看護休暇取得で摘要欄に対象となる子どもの年齢等未記入の事例が一部の学校等において見受けられた。

休暇・職免等処理簿は、休暇取得等の状況を記録し、出勤簿を整理する基本的な書類であるため、遺漏なく、適正な事務処理に留意されたい。

② その他、口頭にて注意した主なもの

- ・ 見積書の見積年月日、宛名の未記入のもの
- ・ 旅行命令簿兼旅費請求内訳書の押印漏れ、記入漏れのもの

6 監査委員との主な質疑応答

(1) 事業所

監査対象事業所	上野地区センター、浅草橋地区センター、台東区民会館
監査実施日	令和元年10月23日(水)
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 事業所)	
Q	町会活動に対して、何かサポートは行っているか。
A	イベント等を行う場合は、連合町会と実行委員会が主催となり、地区センターは事務局として、町会のサポートを行っている。
Q	比較的、若い世帯が多いが、流入が多いということか。
A	マンションの数も増加傾向となっている事と、外国人の為の専門学校の数も多く、そこへ通う人達の影響もあると感じている。また、マンションは、世帯用だけでなく単身用もある為、若い人が増えた要因だと感じている。
Q	証明書の取扱件数が0ということだが、地域の方たちは、地区センターというのは、貸集会室の施設という認識なのか。
A	地区センターでは、証明書の発行事務は行っておらず、現在は、原課に連絡して、次の日に地区センターに取りに来る「取次業務」を行っている。
Q	発行事務ではなく取次業務になって、職員の配置についてはどうなっているのか。
A	地区センターには、取次業務だけでなく、地域支援業務、災害時拠点、施設管理業務があり、それらを含んでの人員配置となっている。
Q	台東区民会館の会議室は、利用の傾向の様なものはあるか。
A	基本的には、会合、講演会、講習会の利用が多く、展示会場の利用もある。産業会館は、スペースが広く、使用料も高いので、小規模な展示会場としては割安な区民会館を利用しているようである。
監査委員意見	
地区センターは、貸集会室、地域支援や災害時拠点として、区民会館は、会合や講演会、そして展示場として、区内外から期待されている施設である。今後ともサービス向上に努め、良好に運営して欲しい。	

監査対象事業所	南部区民事務所、台東地区センター、東上野地区センター
監査実施日	令和元年11月15日(金)
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 事業所)	
Q	災害発生時には、この3施設は拠点になるということで、職員がそこに行くという体制になっているか。
A	この3施設については、出張所の時から災害対策の地区本部という位置付けがあり、5km圏内の職員が、事前にどこの地区に行くというのを災害対策課で指定をして、災害時には指定された地区へ行く形になる。併せて、台東地区センターと東上野地区センターは、地区の避難所の指定も受けている。
Q	事業所としては、出張所的な機能よりも、施設の管理と町会とのコンタクトみたいなことがメインの仕事になるのか。
A	地区センターについては、地域支援と区民館の管理で、それに加えて区民事務所は、各証明書、住民票や印鑑証明、転入・転出の手続き、税務の収納金等の収納事務がある。
Q	各町会連合会とコンタクトするというのは、他区と比べて台東区は珍しいのか。
A	聞いた話ですが、ここまで緊密にやっているのは、台東区が一番だと聞いている。
Q	仕事をしていて、日頃、何か問題や感じる事はあるか。
A	(南部)住民が年々増してきていることに伴い、事務量も増えてきているため、スムーズな窓口業務の展開が重要課題だと思っている。また、外国人住民も増加しており、町会の方々はゴミ出しのマナーなどをどの様に理解してもらうかに苦慮されている。 (台東)町会の方々の高齢化が進んでいて、区政に協力するのが大変と聞いている。複合施設なので、各施設間の連携をとっていきたい。 (東上野)台東と同様に、町会の方々の高齢化・固定化が進んでいる。若い人が町会に入らない。または入っても、運営する側に廻って頂けないということがある。また、再開発に伴い、地域の運動会を実施する場所がなくなるので、町会同士の繋がりが希薄になる恐れがある。なお、集会室貸出しについて、現状の在り方と利用者のニーズに差があると思う。
監査委員意見	
それぞれの地区で、それぞれの悩みがあることが判る。区民事務所や地区センターで直ぐに解決できる問題ではないことも多い様だが、根気強く業務を続けて頂きたい。	

監査対象事業所	台東子ども家庭支援センター
監査実施日	令和元年10月15日(火)
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 事業所)	
Q	子ども家庭支援センターは、3施設プラス1分室という形で運営しているが、それぞれの施設で何か役割分担の様なもの、違った色を出すとかはあるのか。
A	それぞれのセンターで違った色を出すとかはないが、日本堤では、虐待に関する相談を関係機関と連携・調整する役割を担っており、谷中分室では、いっつき保育を行っている。どのセンターも基本的な部分は同じで、イベントをきっかけに気軽に遊びに来て頂く事を目的としている。なお、南部地区(寿・台東地区)は、人口が増加していて、外国人の方や若い年代の方が多いので、独自の事業も展開しているように、住んでいる方の様々なニーズに応えられるよう取り組んでいる。
Q	独自で実施している「はじめてのおるすばん」は、結構利用されているのか。
A	当初は周知がうまくいかなかったのか、中々参加頂けませんでしたでしたが、利用者の方々の口コミで伝わったのか、先月は6組の親子に参加頂いた。
Q	もう一つの「クローバーズ」についてだが、1歳児から3歳児までということで、3歳以上になったときには、その親子交流会から抜ける形になると思うが、その後の交流というのは何か続いたりするのか。
A	3歳以上になると子育て・若者支援課で行っているイベントを、3歳の時からパンフレットを配るなどして案内している。
Q	今までやってきて、これからの課題や企画はあるか。
A	一つは、切れ目のない支援という事で、センターは子どもが生まれてから来るところですが、妊婦さんの頃から来館して頂き、育児をしている先輩お母さんを眺め、子どもに慣れてもらう事が、切れ目のない支援に繋がると考えている。もう一つは、中高生と乳児との交流で、核家族化が進み、少子化も進んでいるので、そういう人達に乳児に興味を持って頂き、自分もいつかはと思って頂ければと考えている。
監査委員意見	
ただでさえ多忙なのに、色々と素晴らしい企画を立てていることに敬服している。今後とも親御さん同士の繋がりを構築して、企画の効果を出せる様に努力してほしい。	

監査対象事業所	松が谷福祉会館
監査実施日	令和元年11月7日(木)
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 事業所)	
Q	各事業の中で、既に定員が一杯で、新規に受け入れができないものはあるか。
A	「障害者デイサービス」は、20名を定員としているが、現時点で満員である。「子ども療育」は、少しずつグループを増やしているが、年度上半期で一杯になってしまい、年度の途中からは受け入れが難しい状況である。
Q	障害者デイサービスの定員は20名だが、30、40と簡単に増やせる訳ではないが、何とか受け入れられる様に調整しているのか。
A	努力しているが、身体であれば「つばさ福祉工房」、あとは、障害福祉施策全体で、福祉サービス提供等も含め、何とか対応していきたいと考えている。利用者は、身体の特別支援学校を卒業する方なので、現在の在校生の数から利用者数を類推して、新たな施設整備等も踏まえ、検討を進めていきたい。
Q	職員数についてだが、再任用及び非常勤職員が半分以上を占めているが、これは松が谷福祉会館としての需要があって、この様な形となっているのか。
A	特に子供養育については、非常に専門性の高い職員が必要になっている。言語聴覚士、作業療法士、理学療法士といった職種を即戦力として非常勤採用している。
Q	台東区以外から転入されてきて、松が谷福祉会館を利用する方で、他区との違いの様な事を聞いた事はあるか。
A	現在の障害者デイサービス利用者20名の中に、他区から転居してきた方が数名いるが、前と比較してという話は聞いていない。会館は、利用者1名に介護職員1名のマンツーマン体制をとっているため、対応としては、非常に手厚いという声を聞いている。
監査委員意見	
色々な説明を聞いて、益々この仕事の大変さが解った。引き続き細かいところまで気を遣い、業務を推進して行ってもらいたい。	

監査対象事業所	浅草保健相談センター
監査実施日	令和元年10月15日(火)
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 事業所)	
Q	台東保健所と保健相談センターの一番の違いは何か。業務範囲とか。
A	浅草保健相談センターでは、保健サービス課で行っている健康づくりの事業や子供の健診などにおいて、浅草地域における支所的な役割を担っている。台東保健所では、区全体の食品衛生や環境衛生などの許可申請関係を行っている。許可申請関係については、区全体を台東保健所が担っているという点が大きな違いである。
Q	新しい施設は、今のところより小さくなるようですが。
A	屋外の駐車場や駐輪場を除いて、現施設の1、2階面積と、新施設5階建ての延べ床面積を比較すると、大きくは変わらない。
Q	母子に対する事業について、移転を機に事業の拡大は考えているのか。
A	全数に対するアプローチとして、妊娠期には「ゆりかご・たいとう面接」を、産まれてすぐには「乳児家庭全戸訪問事業」を行っている。そういった事業の中で把握した、支援を要する家庭に対する新規事業として、「おやこサポート・ネットワーク」を今年度から立ち上げた。内容としては、3・4か月健診時に親子が交流できるように、おやこ一むで保護者の方との交流支援を促していく事業を12月から行っていく予定である。さらに、それを支える後ろ盾として、今でも医療機関などの関係機関と個別の会議を行っているが、その横の繋がりを強化していくために、関係機関全体を集めたネットワーク会議というものを、今年度は年1回実施する。
Q	新しい施設について、地下の利用は検討していなかったのか。
A	費用対効果の面から、地下を作らない方向で設計をした。
監査委員意見	
12月に開設という事で、新たな施設に対して希望と情熱を持っていると思うが、新しい事業や運用について、区民の為に今後とも努力をされたい。	

監査対象事業所	玉姫保育園、谷中保育園
監査実施日	令和元年10月23日(水)
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 事業所)	
玉姫保育園	
Q	昨年度に大規模改修工事が完了して、使い易くなったか。
A	耐震補強工事があったので、柱が補強で太くなっていたり、ブレース(筋交)が入っていたりして、面積的に狭くなった感じはあるが、園舎の中は明るくなったし、園庭に面したところからも光が入るので、あまり窮屈であるとか、狭いという事も感じられず、快適に過ごしている。
Q	職員の居住場所はどのようなところが多いのか。
A	殆どが自転車通勤できる範囲に居住している。この間上陸した台風の翌日も、当園は無事に全員出勤でき、運営に支障は出ませんでした。
Q	区内各所から通園していて、延長保育等で何か問題はあるか。
A	特に問題はない。延長保育は10名が登録しているが、常時利用しているのは5~6名なので、問題は感じていない。
谷中保育園	
Q	開設が昭和42年10月1日で、恐らく園舎は改修無ということだと思う。区の計画と合わせて、順番を待っているという事だったが、その後、改修の予定はどうなっているのか。
A	区の公共施設の保全計画で対象にはなっている。具体的なスケジュールはまだ決まっていない。また、今年度も計画の見直しを行っているが、現段階では、はっきりとは決まっていない。
Q	職員の居住場所はどのようなところが多いのか。
A	何かあった場合には対応できるように区の職員が配置されているので、非常時の対応について問題はない。
Q	保護者との関係は。
A	父母の会があり、保護者の方がベルマークを集めたり、着られなくなった洋服をリサイクルに出したりとか、防災関連で、備蓄品を補ったりして頂いている。保護者も園も安全に対する意識は高い。
監査委員意見	
限られた予算の中で工夫をして園児達の為に頑張っている様子が伺えた。今後とも園児達の為に、努力をお願いしたい。	

監査対象事業所	千束保育園、待乳保育園
監査実施日	令和元年11月15日(金)
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 事業所)	
共通	
Q	延長保育というのは、予めどれくらい前からお願いをしなければならないのか。
A	入園されるとき申請があれば、前の月に空いていれば、急遽ということもある。その園の定数に対する割合があって、その定数を満たしていなければ、前月の25日までに申し込んで頂ければ、翌月から利用できる。
Q	それぞれの園の職員は、園の近くに住んでいる方が多いのか、それとも来るのに時間の掛かる方が多いのか。
A	千束は、近い職員の自転車通勤が多いが、数名は、千葉、埼玉から通勤している。待乳は、常勤の19名の内、16名が徒歩又は自転車で通勤しており、台風の時なども電車などの交通機関を使わないで来られる職員が多い。
千束保育園	
Q	こどもクラブ・児童館併設ということで、ある程度、連携を取りながらやっている中で、例えば避難訓練とかは、連携してやっているのか。
A	年間の予定は保育園で立てるのですが、それを渡して、避難訓練の放送であったり、指示は保育園の方で行っていて、全館放送で流して、集まる場所を指定したりして、一緒に行っています。あと、外部の消防や警察を呼んでやる場合も、消火訓練等を一緒に行っている。
待乳保育園	
Q	場所的に隅田川の直ぐ側ということで、隅田川が氾濫するというのは、殆ど無いとは思いますが、訓練的には、駆け上がり訓練を行っている様だが、これは、園内の1、2階で行っているのか、それとも、今戸住宅の階段を使って行っているのか。
A	今戸住宅の3階以上に避難するというので、毎年ご協力を頂いている。その際に、社会教育館のホールも通るので、共同訓練という形で行っている。
Q	雑巾掛けを行っているが、その目的は何か。
A	雑巾掛けは、「雑巾掛けを通した体力づくり」として行っている。
監査委員意見	
施設の問題、人的な問題、教育上の問題と色々大変だと思う。引き続き子ども達の為に、宜しく願いしたい。	

監査対象事業所	根岸図書館、石浜図書館
監査実施日	令和元年11月7日(水)
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 事業所)	
共通	
Q	それぞれの図書館で、運営のモットーとしている様な事はあるか。例えば、子ども中心でとか、勤め人を中心とか。
A	根岸図書館は、子ども室のスペースを広めにとっているので、子どもや親子で利用して頂ける様に務めている。 石浜図書館は、こども園との複合施設なので、こども園の保護者にもアプローチをして、なるべく図書館を利用して頂ける様に務めている。
Q	全体の図書館の利用者は、周辺住民の方が多いのか、もう少し広い範囲なのか。
A	根岸図書館は、登録者数の割合が、区内の方が約56%で、それ以外の方が区外となっている。荒川区との区境にあるので、荒川区の方もかなり来ていると思う。 石浜図書館は、登録者数の75%が区内在住となっている。荒川区、墨田区との区境にあるが、意外と地元の方が利用されている現状である。
根岸図書館	
Q	開設が昭和47年10月1日で、建物も大分古くなっている。上に都営アパートがあって、難しい話ではあると思うが、建替えや改修とかの計画はあるのか？
A	平成25年から27年まで2年掛けて東京都の耐震補強工事を実施したが、図書館自体も老朽化が進んでいる。区の施設保全計画の第2期計画においても、改修を予定しており、併設の社会教育館との連携などを含め、今後検討していく。
石浜図書館	
Q	資料を見ると、CDなどは少しずつ減っているが、利用者があまりいないということか。
A	古いものが多くなってきたので、見直しをして少しずつ新しいものと入れ替えているところである。
監査委員意見	
折角の施設なのに、利用者数が減少傾向ということである。それぞれの館で工夫して、有効利用してもらいたい。	

(2) 小学校、中学校、幼稚園、こども園

監査対象校(園)	上野小学校、清島幼稚園
監査実施日	令和2年1月27日(月) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長、園長)	
上野小学校	
Q	地域に開かれた学校を目指すのか。
A	地域の方には、積極的に行事などへの参加をお願いしているが、不審者が侵入しないようになど、安全面の配慮を大切にしている。社会教育センターとの複合施設の良さを教育にも活かしている。
Q	開校30周年を迎えて、児童の様子はどうか。
A	明るくて素直、校内生活も落ち着いている。
Q	インテリジェントスクールらしいところはどんなところか。
A	複合施設として社会教育センターを活用して、プールや地域の方の教育活動への参加など、地域とのかかわりが濃い。
Q	英語の学習方法で工夫していることは。
A	ALTのネイティブによる英語中心の授業。英語は3年生からだが、おもてなし教室で1年生から行っている。
清島幼稚園	
Q	夢プロジェクトとは何か。
A	オリンピック・パラリンピック教育で、希望を出して都合が合えば、本物のアスリートを招聘できるものである。
Q	園舎が狭いということとオープンスペースの環境だが、部屋を仕切った方がいいことは何か。
A	カーテンや工夫した仕切りを必要に応じて活用する。学級が落ち着いて、活動することもできる。
Q	特別支援教育推進園とは何か。
A	どこの園も、特別支援の子どもを受け入れているが、研修の企画の担当や特別支援の小・中学校との連携の窓口となっている。

監査対象校(園)	根岸小学校、根岸幼稚園
監査実施日	令和2年1月24日(金) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長、園長)	
根岸小学校	
Q	志教育の考え方について。
A	志を見つけることができる力を身に付けさせるために、まずは、豊かな心を育み、自分の心を見つめられるよう、身近な大人たちを見て未来に希望を持つことなどに取り組んでいる。
Q	根岸英語村は素晴らしい取り組みだが。
A	魅力ある教育活動の予算を使い、一日中英語のみの日を作り、ALTの文化に触れる取り組みをしている。
Q	自己肯定感が薄くなっていると聞くが、どうか。
A	友達同士でよいところを見つけ合ったり、自信をもって取り組めることを増やしていったりしている。
Q	大規模改修にあたり、現場の校長や教員は、設計の段階から希望を言ったり、協議をしたりするのか。
A	すべての教員から聞き取りをし、設計にも活かしている。幼稚園も同様である。
根岸幼稚園	
Q	改修工事期間中は、2フロアだったスペースが1フロアになるが、1フロアになるメリットはあるのか。
A	異なる年齢の交流が盛んになり、異年齢同士個人個人の関係が深まった。
Q	子どもたちは、野菜が育っていくのを楽しみにしているようだが、農園はどこにあるのか。
A	公園の隣にある畑や、プランターで野菜や花を育てている。
Q	親子栽培やランチデーなどの活動により、親子のつながりが強まるよう心掛けているということだが、昔から、親子関係を重視しているのか。
A	従来から行っているが、近年、より役割が強くなっている。

監査対象校(園)	忍岡小学校
監査実施日	令和2年1月21日(火) 14時45分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長)	
Q	オリンピック・パラリンピック教育について次年度以降どうするのか。
A	これまでやってきた水球関係やシッティングバレー、伝統文化と国際理解教育など続けていきたい。
Q	国立教育政策研究所教育課程指定校としてどんな研究をしているのか。
A	上野中学校と忍岡こども園との連携を通して、就学前から義務教育修了までの資質・能力の育成について「提案できる子供」をキーワードに進めている。
Q	たくさんのプロジェクトがあり、区立小学校では、珍しい国際性もある。教員はよくやっているのか。
A	きっかけは、管理職がつくるが、教員それぞれが担当して事業が継続できるように、意欲的に進めてくれている。
Q	英検受験や放課後子供教室を行うきっかけは。
A	英検受験は、偏差値ばかりではなく、こどもの自己肯定感を高めるための場を提供している。放課後子供教室は、子供たちの放課後の居場所として好評である。
Q	箏の演奏の取り組みは。
A	地域の方に手伝っていただき、6年間で全員が体験できるようにしている。本校の特色ある教育活動の一つである。
Q	これからやりたいことは何か。
A	来年、創立145年を迎える。地域とのつながりをさらに深め、現在行っている特色ある教育活動をさらに活性化していきたい。
監査委員意見・要望	
<ul style="list-style-type: none"> ・校庭も広くなり、様々な取り組みも行っていることで、魅力ある学校になり、児童も集まってきたように思う。 ・台東区外の児童が多く、災害時のことが心配だが、しっかりと対応してほしい。 	

監査対象校(園)	金曾木小学校
監査実施日	令和2年1月21日(火) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長)	
Q	図書への貸し出し数が大幅に伸びた要因は。
A	昨年度は、読むことについての校内研究を行い、読書活動の充実を図った。本を紹介したり、教科書の内容に関する本をそろえたことも大きいと考えられる。
Q	立ち止まりあいさつは、学校の中だけで行っているのか。
A	まずは声を出そうということで、校門の前と校内で行った。最近では、来客があったときにも声が聞こえるようになった。
Q	校長が児童を直接指導することもあるのか。
A	日常的に児童に多く接しているのは、担任なので、担任を通じて指導することが多い。校長自身は、毎日、校門に立ち、教室を回ったり、一緒に遊んで、児童の状況を見ている。
Q	基本方針に掲げる「わくわくする学校」とはどのような学校か。
A	児童は明日も学校に来たくなる、教員も生きがいと行きがいを感ずる、保護者も安心して子供をお願いできる、地域の方も誇りを持てる、関わる人みんなが明るくなるような学校である。
Q	児童数が増えてきているということだが、教室は足りているのか。
A	パソコンルームを教室に変えたりして対応している。
Q	環境漫才とは何か。
A	漫才を通してリサイクルを教えるもので、台東区独自の取り組みである。
Q	町会と教員、児童の関係は。
A	餅つきやバザーに来て、児童の様子を見てもらっている。また、教員も地域の祭礼などに積極的に参加するようになっている。
監査委員意見・要望	
<ul style="list-style-type: none"> ・校長室のドアがいつもオープンになっているとのことであるが、校長がフレンドリーに児童に接することはいいことだと思う。 ・本を読むことは、書く力の基礎を支えるものなので、さらに児童が読書するための工夫をしてほしい。 ・あいさつは大切なので、引き続き児童に対して働きかけてほしい。 	

監査対象校(園)	大正小学校、大正幼稚園
監査実施日	令和2年1月27日(月) 14時45分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長、園長)	
大正小学校	
Q	お茶などの本物の活動体験をしているが、反響はどうか。
A	6年間やっていて、なくてはならない事業となっている。本物と触れ合うことで何かをつかんでほしい。
Q	児童の体力面での課題は。
A	投げる工夫やOJTを通して、若干上がってきているが、まだまだ改善の余地があり、取り組んでいきたい。
Q	若手教員の育成は。
A	若い先生は18人中、6~7人で、具体的に指示しないと、行えない先生が多い。水曜日の午後のOJTなど、グループ研究としてみんなで積み上げている。
Q	外国籍の児童のテストはどのように行っているのか。
A	日本語指導の先生がついたり、英語ができれば英語で対応している。
大正幼稚園	
Q	青空なかよしとは何か。
A	子育て支援に力を入れていて、更生保護女性会や町会の方が来て、大正公園で、子供や保護者と話をしたり、その様子を見てくれたりする。
Q	お茶会は長く続いているが。
A	地域の方で学校とつながっている方がいるため、長続きしている。
Q	和太鼓をやっているが。
A	来年の周年行事で行いたいと考え、計画的に取り組んでいる。
監査委員意見・要望	
・わくわくチャレンジでは、苦手な野菜に挑戦するなど、いい取り組みで大事なことである。	

監査対象校(園)	台東育英小学校、育英幼稚園
監査実施日	令和2年2月20日(木) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長、園長)	
台東育英小学校	
Q	海外に行っていた子どもが入学してきた場合はどうしているのか。
A	様々であるが、日本語指導を入れないと難しい子もいる。保護者が日本語が不自由な場合、通訳ができる友達を連れてきてもらうことが多い。
Q	マンションが増えて児童も増加したようだが、従来と変わった子どもの特徴はあるのか。
A	子どもの方は感じないが、保護者の意識は違う感じがする。従来は、保護者同士のつながりの中で解決することが多いが、横のつながりがないため、ちょっとしたトラブルが大ごとになり、うまくいかないことがある。また、町会に入ってもらえないという話もあるので、町会で人間関係をつくってもらえればと思う。
Q	金管バンドは、希望者全員入れるのか。
A	4年生以上の希望者で、やる気があれば全員入れる。
Q	金管バンドは、どのような活動を行っているのか。
A	全日本小学校バンドフェスティバルやマロニエ祭り、鯉のぼりフェスタに出ている。
Q	学力向上推進ティーチャーは何を教えているのか。
A	算数を教えている。一クラス40名近いところもあり、全員を一人で見るとは、厳しいところもある。
Q	体力面はどうか。
A	傾向として、敏捷性は都の平均を超えており、柔軟性もよい。投げる力、持久力は、都の平均に行かないクラスが多い。低学年より高学年になると平均にいかなくなることもある。
育英幼稚園	
Q	幼稚園として募集の努力は。
A	未就園児の会で、保護者に幼稚園の良さをアピールしている。
監査委員意見・要望	
・幼稚園の園児が減っているということだが、幼稚園の魅力、素晴らしさを発信できればと思っている。	

監査対象校(園)	富士小学校、富士幼稚園
監査実施日	令和2年2月4日(火) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長、園長)	
富士小学校	
Q	「確かな学力を育む」ことを重点目標にしているが、教員は共通した認識で取り組んでいるのか。
A	45分の授業の目的とまとめが分かるように、板書をきちんとやって、児童に書かせることを統一してやっている。富士スタイルと言われているが、授業の積み重ねがはっきりわかるようにしている。
Q	あいさつは大事だが、何か取り組んでいることはあるのか。
A	各学年にあいさつ当番を置いて、一生懸命やったときは、みんなの前で披露するなど、頑張った児童を認めることで、それに引きずられて、みんながやるようになる。
Q	子どもたちの図書館の利用は。
A	司書が入って読み聞かせなどをやっているので、子どもたちはよく図書館を利用している。
富士幼稚園	
Q	幼児教育無償化の影響は。
A	保護者には長く預かってもらいたいという希望があり、他区でも、私立でも厳しいと聞いている。未就園のひよこの会などで、幼稚園の良さを知らせるなど頑張っていきたい。
Q	小学校との境がアコーディオンカーテンだが、ちゃんとした垣根がなくていいのか。
A	小学校の玄関なども幼稚園児の遊び場になっている。校庭も使わせてもらい、小学校の活動は刺激になっている。同じ敷地内にある良さである。
Q	幼小連携における対応は。
A	来年、研究協力園を受けて、発達のプロセスをわかったうえで、段階を追ってどうすればいいか研究する。交流、体験させると必ずやりたくなるので、気付きを大切にしながら、自分たちの学びを深める研究を、低学年の先生と連携してできたらいいなと考えている。

監査対象校(園)	千束小学校、千束幼稚園
監査実施日	令和2年2月6日(木) 14時45分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長、園長(校長兼務))	
千束小学校	
Q	教職員の2/3が異動となり、年度当初は苦労があったのではないのか。
A	単学級の経験のない教員が来ると、すべて一人で対応しなければいけないことがあるので、戸惑いはあった。
Q	重点目標に「自分ごと」として学び、とあるが、自分ごととは何か。
A	「自分と同じように友達のこと考える」という意味である。児童には、ストーンと落ちる言葉である。
Q	ベーシックドリルとは、基礎的なことをやらせているのか。
A	基礎的・基本的な内容を繰り返し、定着度を上げている。
千束幼稚園	
Q	周辺は密集しているが、外に出るとき、安全性に心配はないか。
A	教員が見守り、安全を確保しているが、現在、工事車両が多く、心配である。通学路、特に下校時は安全確保に注意している。
Q	小学校と連携すると、9年間一貫ということになるが。
A	一貫を意識した取り組みをしているが、5歳児全員が千束小に入学するわけではない。
Q	幼稚園も小学校も、翌年度の入園・入学者数が少ないが、具体的に確保する方策があるのか。
A	2歳児に働きかけて、幼稚園に入ってもらえれば、そのまま小学校に入学する可能性が高い。児童館まわりをして、保護者に千束の良さをPRして入園児、入学児の確保に努めている。
監査委員意見・要望	
トライアスロン、わんぱく相撲、ネギ栽培などユニークなプロジェクトが多く、いい取り組みだ。	

監査対象校(園)	金竜小学校、金竜幼稚園
監査実施日	令和2年2月21日(金) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長、園長)	
金竜小学校	
Q	学力はどうか。
A	平均的だが、社会と理科の改善が図られてきた。下位層の児童への対応がより課題になっている。
Q	防災備蓄品に関し、金竜小だけがやっている取り組みがあるようだが。
A	児童によっては、アレルギーがあって区からの備蓄品がダメというものもあり、子供たちの家で作った1食分を学校で預かることもしている。
Q	ビオトープは素晴らしいと思う。外来種を入れないということだが、入ってしまうことはないのか。
A	アメリカザリガニなどが入ってしまうことがあり、定期的に除去している。
Q	いじめについては。
A	重篤なものは減ってきたが、友達同士の言葉やラインなどによるものが多くなってきた。ラインは誤解を招く言葉になりやすい。
Q	各授業の中にプログラミング教育を取り入れるということだが。
A	各学年別に10時間とり、操作などの時間を作った。新学習指導要領の情報活用能力の中にプログラミング教育があり、来年度から全校で取り組んでいく。
Q	プログラミングの研究の成果は。
A	プログラミング的思考は、順番を考え、図形化して形で分けたり、より簡単なものをつくることで、自分の考えやこだわりを表現しやすくなるという成果が出てきている。
Q	プログラミング的思考は、各授業の中で採用できるのか。
A	教科、単元の内容を児童により分かりやすくするためのひとつとして、物事のプロセスを考えるというプログラミング的思考を試行錯誤しながら、研究している。
金竜幼稚園	
Q	無償化の影響で、園児は集めづらい状況か。
A	幼稚園を希望する保護者も一定数いる。就学前の家庭をターゲットに幼児期の教育の重要性、公立幼稚園の保育についてアピールしていきたい。

監査対象校(園)	柏葉中学校
監査実施日	令和2年2月6日(木) 13時30分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長)	
Q	柏葉アカデミーとは。
A	学びたい生徒を放課後に集めて、教員と学力向上推進ティーチャーが教えている。常時来ているのは、各クラスで10~15人だが、試験前になると増える。1~2年生は部活動が多く参加人数は少なめであるが、3年生になるとアカデミーが多い。英語と数学を中心に他教科も教えている。
Q	柏葉アカデミーでレベルの違う生徒への対応は。
A	数種類のプリントを用意し、各生徒にあったものをやることにしている。
Q	生徒はどれくらいの割合で部活動に所属しているのか。
A	郊外でスポーツ等をする生徒もいる。8割くらいの生徒が入部して、活動している。
Q	人権教育の内容は。
A	教育活動すべてが人権教育だと捉えている。外部から人権プラザ、人権擁護員、障害者の方に講演や授業をしていただいている。また、革でペンケースを作るなどしている。
Q	生徒数が減っているのは。
A	年度によって、6年生の数も変わってくるので、特に著しく何か原因があったわけではないが、選択制の影響もあるかもしれない。当校は、こういう学校で、こうありたいとメッセージを出していきたい。
Q	難聴学級は何人在籍しているのか。
A	10人。本校所属の生徒は2人で、8人は他校から通ってきている生徒。
・監査委員意見・要望	
校訓の「堅忍不拔」は、耐えて頑張るという意味だと思うが、いい言葉だと思う。	

監査対象校(園)	上野中学校
監査実施日	令和2年1月24日(金) 14時45分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長)	
Q	上中英語村は、根岸小学校の英語村と連携しているのか。
A	連携はない。丸二日英語漬けの生活をする中で、英語が話せる中学生を目指して、魅力ある教育活動の予算を使って始めた。
Q	中学選択制をどう思うか。
A	安定的な学校経営を考えれば、地元の子に来てもらえればと思うが、この学校にあこがれて遠くから個性豊かな子が来ることで、幅広く教育を提供できることはいいことだと思う。選んでもらえることはありがたいし、選べる余地があることは、保護者、生徒にもいいことだ。
Q	学習指導の目標に「生徒指導・学習指導の組織的な実践」とあるが。
A	各学年で指導方針が違くと学校不信になる。一年生から3年間を通して、全教員で、規律正しい学校になるよう生活指導をしている。一年生では、整列や身だしなみを教え、二年生では、主体的に取り組むようにと、3年間かけている。
Q	体力的にはどうか。
A	大規模改修時には、谷中小学校や上野公園を借りたが、運動することが極めて厳しかった。現在は、そのようなことはないが、体力テストでは、筋力と持久力が弱いので、体育の授業のスタート時に、腕立て伏せとか持久走に力を入れている。
Q	水害で水が出て、帰れないときはどうするのか。
A	安全性を考えると、生徒は引き取りがあるまでは、学校での待機となる。また、体育館棟は地元の防災拠点になる。
Q	生徒数が増えて、苦勞することは何か。
A	区内外の24の小学校から生徒が来ていて、上野中の規律ある学校生活にいかになじませるかが課題。
Q	生徒に伸びる余力があると感じるのは、どういうときか。
A	生徒を地域に連れて行き、そこで褒められると生徒はやる気を出す。初音の森での駐輪整理では、あいさつすることで違法駐輪を防いでいた。教えていないことまでできることが度々あり、伸びる余地があると感じる。

監査対象校(園)	浅草中学校
監査実施日	令和2年2月20日(木) 14時45分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 校長)	
Q	水曜学習に生徒は集まっているのか。
A	基礎のクラスが満杯の状態。発展は塾の講師が、基礎は学力向上推進ティーチャーと大学生が担当している。
Q	夏季勉強合宿と参加者の声は。
A	3年生の希望者が霧ヶ峰学園の合宿に参加し、学力向上推進ティーチャーと大学生が指導にあたっている。朝、午前、午後、夜間とやっている。アンケートでは、分からなかったことが分かったり、大学生と話ができよかった、進路のイメージにつながったなどとなっている。
Q	三味線は部活か。
A	希望するやりたい生徒が三味線部に入っている。
Q	昨年、都から、水害のマイタイムラインが配布されたと思うが。
A	夏休み前に、保護者に配布している。
Q	生徒が内弁慶ということだが、改善のため、どうしているのか。
A	いいものを見つけたら、認めてほめることを大事にしている。ケーブルテレビにも取り上げられたが、スポーツ心理学の先生に、不機嫌よりご機嫌の方が気持ちいいという「ごきげん授業」を行っている。アスリートやJALの機長などに来てもらい、子どもたちをポジティブにする。
Q	コミュニケーション能力はどうか。
A	コミュニケーション不足で自信を無くしている子どもも多く、スクールカウンセラーをうまく活用して、アドバイスをもらっている。全員、学年朝会などでスピーチを実施している。
Q	蔵前工業高校との連携は。
A	1年生は施設や授業を見る。2年生は高校の先生に体験授業をやってもらう。3年生は進路を兼ねた体験授業をやっている。
Q	不登校の生徒は、家庭が難しいのか。
A	家庭が不安定なケースもある。家庭には、外部関係機関と連携を取って、ストレスを少なくしていく事を考えて、対応している。

監査対象校(園)	石浜橋場こども園
監査実施日	令和2年2月4日(火) 14時45分
主な質疑応答 (Q: 監査委員 A: 園長)	
Q	区内で唯一の公設公営のこども園だが、苦勞は。
A	こども園で勤務した保育士も幼稚園教諭も、異動して各保育園、幼稚園に戻ると、もとの保育士、幼稚園教諭という意識に戻ってしまう。また、こども園が特別視されてしまう傾向がある。
Q	アスリートとの交流はいい刺激になるが、予定していることは。
A	4、5歳児を対象として、パラリンピックに出場した義足のランナーに講演してもらう予定である。
Q	夜間に自然の会を行うということだが、具体的には。
A	ナチュラリストの方に公園などを案内してもらうナイトハイク。夏の6時ころから行い、7時半過ぎには解散する。
Q	基本方針の「子供のためのこども園」の文化とは。
A	保育士や幼稚園教諭の文化を取り払って、さまざまなニーズがある保護者にも、子供を真ん中に置いて、子供のためにを第一に何をするかを考えるということ。
Q	1歳児保育で入園すると、長時間児のまま卒園までいくのか。
A	ほとんどがそうである。途中で、長時間から短時間になる、また逆も少ないがあり得る。
Q	卒業生の保護者から、こども園でよかったという話を聞くことはあるか。
A	長時間児の保護者から、行事が多く、いろいろな経験ができてよかったという話は聞く。
Q	園長として、今後の園について。
A	10周年が終わり、地域にもこども園が根づいている。老人ホームや町会、地域の行事などにも出かけ、また、いろいろな橋渡しをして、地域にあってよかったと思われるような園にしていきたい。

7 まとめ

(1) 事業所

各事業所は、それぞれの設置目的に従い、様々な区民ニーズに沿って、役割や機能が十分に果たされるよう、限られた人員・資源の中で、区民要望を最大限満たすべく、色々な事業を企画・立案し、創意工夫しながら運営の充実に努めていた。特に保育園では、台東区幼児教育共通カリキュラムに則り、園ごとに工夫して、園児の学習習慣・生活習慣の共通化、段階化を進めていた。

また、施設の利用者はもとより、保護者や地域団体等との連携により事業効果を高める取り組みが積極的になされていた。

一方で、施設の老朽化が進んでいて、軽微な不具合のある事業所も散見される。台東区施設保全計画を考慮しつつも、利用者の安全確保を優先した環境整備に努めて頂きたい。

各事業所においては、多様化する区民ニーズや環境の変化に適切かつ迅速に対応するとともに、事業内容の見直しや事務改善の取り組みを推進していくことで、区民福祉の更なる向上が図られることを望むものである。

(2) 小学校、中学校、幼稚園、こども園

各学校等においては、教育目標と経営方針に基づき、基礎学力の定着や豊かな人間性の育成、体力の向上といった様々な課題に取り組み、教育内容の充実に努めている。

小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から新学習指導要領が全面実施される。今回、学校等監査を行った中で、小学校でプログラミング教育や英語学習に取り組んでいる学校も見受けられた。これからの、グローバル化や情報化、人工知能などの技術革新が急速に進む時代では、予測困難な社会に対応するため、子どもたちが主体的に物事に取り組む姿勢が大切であり、自分たちを取り巻く様々な社会の課題に向き合い、解決しようとする能力が必要である。

なお、今後とも、家庭や地域等との連携を図りながら、台東区の子どもたちが、生涯にわたり学び続ける意欲とこれからの社会を生き抜く力を身に付けられるような教育環境の充実に向けて全力で取り組まれていくことを望むものである。